

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900550		
法人名	株式会社 エイム		
事業所名	グループホームももたろう(1階)		
所在地	愛知県稲沢市小池二丁目25番6		
自己評価作成日	平成22年10月28日	評価結果市町村受理日	平成22年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373900550&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成22年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状の進行の緩和に有効とされる会話する機会を多くとる為に、職員を基準より多く配置する事でホーム全体にゆとりのある介護と生活の場の提供をしている。職員構成も10~70代と幅広い年齢の職員で、昔の大家族をイメージした生活環境を演出し、若さならではの、年の功ならではの発想と知恵を出し合い互いに助け合う関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、「アットホームな介護」という理念・思いを職員全員が共有しながら、日々支援していくことを心掛けている。このような取り組みを通じ、ホーム全体が和やかな雰囲気であり、利用者、職員には笑顔が溢れ、明るく安心できるホームであるといえる。利用者は広いリビングで寛ぐことができ、広い窓からは田畑が見え、四季の変化を感じ取れる環境にある。職員配置についても多く配置することで、職員間の良好な人間関係と合わせて、質の高いサービスの提供につながっている。人材育成にも昇格ランクが多様で、職員のレベルアップ、ケアの質の向上を目指している。食事に対しても栄養士の確保、豊富なメニューで利用者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につくところへ理念を掲示し、幅広い年齢層の職員構成で昔の大家族を演出。家族のような馴染みの関係を築いている。	理念は、開設時に代表の方針に沿い、「アットホームな介護」が現在まで至っている。職員は採用時や研修等の機会を確認し理解できており、日々のサービス提供を振り返りながら、ケアに取り組んでいる	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に周辺を散歩、近隣の住人と挨拶や会話をしたり、地域行事へ積極的に参加している。	町内会、老人会に加入し、日常的な交流にも心がけている他、地域の行事(裸祭り、大鏡餅つき、夏祭り、保育園の運動会)に参加している。餅つきの際には、杵つきに参加する利用者もいて、楽しい1日を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣で家族に要介護者がいる方の相談を受けたり、各種サービスの利用の説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出されるご意見を真摯に受け止め改善できることから実施、更に喜ばれるサービスの提供をしている。	運営推進会議開催の協力体制はできている。今年度からは2か月に1回は開催できている。今年度は、近況を報告しながらホームの状況を理解いただき、質問に答える等の話し合いを行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターから運営推進会議に参加して直接ホームを見て知って頂き、協力関係の構築に努めている。	介護保険の更新手続き、障害者の各種手続き等に市役所に出向く機会をつくっている。その際に、制度のことについての相談、介護保険課の担当者との情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族の希望を受けた緊急性のある・一時的な身体拘束以外は、身体拘束をしない介護を心掛けて実施している。	酸素療養の方に対して生命に危険が及ぶため、やむなく両手にミトンを使うが、できるだけ職員が見守り、ミトンの使用を短時間にできるように支援している。現状、玄関の施錠は行っていない。	身体拘束のないケアを目指している姿勢は伺えるが、重要な課題でもあると思われる。今後に向け、マニュアル等を利用して、継続的な職員研修の実施を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える傷だけでなく、精神不安定にも留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学び、ご家族から相談・依頼があれば協力できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を読み上げ十分な説明を行い不明な点についてはいつでも説明できる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常的に意思決定の機会を作り、ご家族からは面会時・電話連絡等で聞き取りを行っている。	家族の面会が頻繁にあり、職員と気軽に話ができ、出た意見等は会議に掛けて反映されている。家族には毎月「ホーム便り」を発行し、状況報告を行っている。また、意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報・連・相を密にし、できることから実践している。	管理者は、日頃からコミュニケーションを図り、意見や要望を聞き出すようにしている。代表者も頻繁に現場に出入りし、業務内容を確認している。職員の昇格制度もあり、職員が向上心を持って働らく環境をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢・学歴・性別・勤続等にこだわらず、個々の技能の向上を認める昇給・昇格制度があり誰もがやりがいを感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業時間内に各種研修参加の機会があり、内容をホーム内へ浸透させる発表の場が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡協議会へ入会し、研修講義へ職員が交代で参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を確認し、性格や生活歴を考慮した支援を提供し、入所後のできるだけ早い時期に馴染みの関係を築けるよう意識して介助にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安を解消する為に聞き取りを行い、希望に沿ったサービスの提供ができるよう、臨機応変に対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の各種サービスの紹介をし家族に選択して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として教えを請う場面をもち、相互に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の時や日常的な面会時に家族との情報の交換・共有に努め、協力して本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所・面会訪問して頂いたり、家族と外出されたり送迎の援助で支援している。	ホームには、面会の制限は無く、近隣の友人、親戚が来訪されることもある。公園への散歩も多く、馴染みの人との交流も多い。法要への参加、神社のお参りも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円満な関係が保てる様に職員が必要に応じて間に入り、関わりが持てる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の希望に応じて相談に乗ったり、面会・訪問を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを密にとり、本人の意向を把握するよう努めている。	入居時フェースシートで本人、家族の思いや希望を聴く仕組みを取っている。表現のできない方に対しては、表情や反応で意向を読み取り、家族からの聞き取りで、日常生活のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族からの情報提供により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の介護記録や排泄状況の記録を元に現状の把握を職員全体で行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と直接話し合ったり、電話連絡等で意見交換を行い、介護計画の作成は定期的に行っている。それに加えて、本人の状態に変化があったたびに計画の見直しをしている。	センター方式を導入し、職員全員、ケアマネ、管理者が話し合って計画を作成している。モニタリングとアセスメントを3か月毎を交互に行い、基本6か月に1回のペースで見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録を詳細に記入し、担当者会議を適宜開催してより良い援助内容となるように活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・入院・退院または親族の法要や結婚式、または各種申請手続き等、本人や家族の希望に応じ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の各種店舗で買い物を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診で医療管理をしている。また、必要に応じて専門医の受診をしている。	協力医の往診が月2回あり、専門医(精神科、皮膚科)の受診も必要に応じ支援している。かかりつけ医の往診依頼、歯科医の訪問診療等、状況に応じて支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置し、情報を共有し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーと連携し対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・家族と話し合いを重ね、意向に沿った看取りまで支援している。	ホームでできる事を、入居時に説明しており、その状況に至った時は、ターミナル契約書を交わすこととなっている。職員の不安に対しては、連絡網ができており、安心してケアができる仕組みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による指導を受け、普段の業務中から急変時の対応について職員間への周知をはかり、実践力の向上につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、民生委員の方から近隣の情報をいただいている。	消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に昼夜を想定した避難訓練を行っている。運営推進会で決まったスプリンクラーは、調査の翌日から設置が始まることになっている。備蓄も運営推進会で適宜見直しされている。	「お互いが助け合う」との地域性は強いが、今後は地域との交流を高める意味も含めて、地域の方への参加呼びかけも検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のこだわりや習慣を尊重し、敬意を持って対応している。	ケアに対しては、本人の気持ちを大切に考え、トイレ誘導等には、さりげないケアを心掛けている。また、利用者に気まずい思いをさせないように、ミーティングで個々の情報交換も行っている。	必要に応じてその場の対応は適宜にできているが、今後はマニュアルの見直しや、ケアに関する理解を深めて行かれる為にも、研修の機会も作ることも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞く機会をつくり、傾聴することで希望を聞き取り、自らの選択で行動を決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々気分や体調に合わせて、本人の意向を確認して希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や個人の好みに合わせ衣類を共に選んだり定期的に訪問美容室を依頼している。月に一度は化粧をする機会をつくり特別な日を演出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味見をして頂き、お盆拭き・テーブル拭き・メニューの記入・食器洗い・食器拭き等できることを共にしている。	メニューは1週間分を職員が交代で作り、栄養士が確認している。品数は多く、利用者の好みの1品が添えられる。職員と一緒に同じテーブルで食事し楽しい食事時間の確保がされている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み・ミキサー食等にも対応、栄養士の指導を受けたメニューで個々に合わせた量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる部分は利用者が、できない部分は職員が介助し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックの記録を元に排泄パターンの把握を行い、適宜トイレ誘導・介助による失敗のない排泄の支援をしている。	排泄チェック表で個々のリズムをつかんでいる。自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、適切な介助がされており、トイレでの排泄を大切に、パッド類も本人に合わせて検討している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食に食物繊維質を取り入れ、水分摂取量の確保と程度な運動を促し、自然排便の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1・2階で週3回の入浴日を曜日をずらして設定し、利用者の希望に応じて毎日入浴できるようにしている。	1・2階で月・水・金、火・木・土と分けて入浴できるようになっており、毎日の入浴を希望される人も可能となっている。季節に応じて入浴剤も使用し、利用者も安息の時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じて居室やソファで休んで頂いたり、日中の適度な活動・刺激により心地よい疲れを作り、夜間の自然な睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を把握したうえで服薬の支援をし、主治医と連携を図り、状態の変化があれば早期発見・対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加等共同生活の中の役割をもつことで、やりがいを感じ散歩や買い物等の外出で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、買物・外食等本人の希望に沿って外出している。	朝食後、4・5人に分かれ、近くの公園に出かけている。コンビニ、スーパーへの買い物の支援も行い、お墓参りの希望がある利用者には家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物は可能な限り本人に出かけて頂き、支払いをして頂くよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたディスプレイや思い出の写真を飾ったり、トイレ等はわかり易い表示をつけている。	食堂や居間は、一体的な作りで広く、温度、湿度(加湿器)にも気遣い、みんなで寛げる空間となっている。玄関、フローアの飾りつけは、利用者と共に行い、今はクリスマスの飾りつけがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置き気分に合わせた居場所の確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、好みによりテレビ・ラジオを設置している。	入居時、使い慣れた家具や寝具を持ち込み、馴染みの居室作りを支援している。誕生日に職員で描かれた、似顔絵が個々の部屋に飾られ、ほほえましい雰囲気を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に危険のない様環境整備し、手すりを各所に設置、バリアフリーでホーム内を自由に行き来できるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームももたろう

目標達成計画

作成日: 平成 22 年 12 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6(5)	各マニュアルに沿った指導・説明はしているが、継続的な職員研修・記録がない	継続的な職員研修・記録の実施をすることで、レベルアップを目指す	計画的に各マニュアルを活用した研修・記録を実施する	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月